

## 第29回総会・学術大会報告

今年度は11月25（金）～27（日）の3日にわたり開催されました。場所は東京の日暮里のサニーホールです。日暮里は東京の下町で古い伝統のある街です。しかし、ここ数年近代化が目覚ましく、駅前が高層マンションが立ち並び日暮里舎人ライナーというモノレールができ、京成電鉄のスカイライナーで成田空港に短時間でアクセスできる便利な場所になりました。まさに東洋的な伝統と西洋的な近代化の融合した場所で今回の学会テーマである「その深さは最先端を超えていく」にぴったりの場所です。

25日は理事会・評議員会、認定医の為の研修会、そして併催の関東支部総会が開かれました。翌26日は認定試験講習会が行われた後、開会式が岩田幸一大会長（日大歯学部生理学教室教授）の挨拶とともに行われ学術大会が始まりました。一般口演の9題の中には震災の被災地であるいわき市から参加の中山先生にも発表してもらいました。熱心な口演が続いたあと、日大漢方外来の木下優子先生に江戸っ子らしい切れの良いテンポの語り口で「漢方薬の簡単な使い方と漢方医学的な考え方」というテーマで講演して頂きました。

ストレスからくる気滞、気逆、気虚と進む病態に対する漢方の処方についてわかりやすくお話をしてくれました。総会（予算等議事は無事済みしました）を挟んで今回のメインテーマの一つ「このままでいいのか歯科東洋医学会」のシンポジウムが始まりました。ここ数年とどめのかからない会員数の減少についてどのような対策を講じたらよいのか、ICD 11をはじめとする医科の流れに当会が遅れをとっているのではないかとという観点から医科の東洋医学会の代議員を務めている鹿児島大学の山口孝二郎先生、漢方で医科に精通している秋田の小澤夏生先生、鍼灸の立場から神奈川の椋梨兼彰先生の3人に先生方にプレゼンテーションをしていただきました。会場からも活発な意見がでて議論は盛り上がりましたが結論に至る前に残念ながら時間切れになりました。

しかし、このようなテーマで会員の中に問題提起ができたことは大きな収穫だったと思います。続いて香川で内科を開業されている堀口裕先生の教育講演です。ご自分でも堀口先生の治療を受けられ長年苦しんだ喘息を克服された福岡の牛島進先生の導入講演の後堀口先生の登場です。とても優しい語り口です。「根元の医療を目指して」と題して細胞内の酸化老廃物を取り除くことが病気の根本を治すことだという非常に感銘のある講義でした。夕方最後には認定医試験が執り行われ、朝の砂川先生のわかりやすい講義の賜物で全員合格することができました。同時にDHCによる企業セミナーも行われ満員の盛況ぶりでした。

その晩懇親会が行われました。名誉会員の福岡明、高橋一祐両先生も参加され、盛会のうちに森田先生の企画の「みのもんたのクイズミリオネア」が始まりました。みのもんたに扮するのは我らが高橋眞一先生です。ドウランを塗ったその顔と堂に入った語り口調は本物と見間違えうばかりでした。小山悠子先生や岩田大会長も回答者に選ばれ奮闘しましたが、残念ながら商品の“2泊3日北京旅行”を射止めることはできませんでした。会場も回答者に声援を送り、おおいに盛り上がりました。森田先生のプロデュースに感謝です。

翌3日目は今回の最大の目玉である「東洋医学は歯科医療の救世主になれるか」という特別企画で始まりました。閉塞している歯科界へは大きなパラダイムシフトが必要で東洋医学がこの大きな可能性を秘めていることを日本歯科医師会会長の大久保満男先生に知っていただくという趣旨です。最初に大久保会長の講演がありました。食するという事はただ単に咀嚼して栄養にするという生物学的なものだけでなく文化的、生命論的な人間的な生き方そのものであるというまさに東洋医学的な示唆に富

んだお話をさせていただきました。当会からは王宝禮先生から漢方を歯科に取り入れることのメリットについて、特に保険導入をすることの大きな意義について熱く語っていただきました。続いて河野渡先生が鍼灸の歯科への導入例をわかりやすくアピールしてもらいました。その後3人の先生に登壇して頂きディスカッションを行いました。会場からも多く意見を発言してもらう予定でしたが大久保会長が所用で途中で降壇されたため十分な時間が取れず残念な面もありましたが、大久保会長は当会の熱い思いは十二分に感じたとおっしゃっておりました。今後も大いに歯科医師会とも協力をして歯科界の発展の一助になればと願っています。

その後、大会長主催の「痛みの基礎と臨床」と題するシンポジウムが川喜田健司、今村佳樹両先生をお招きし、基礎と臨床の両面から語っていただきました。日頃どうしても臨床に傾きがちな我々に大きな示唆を与えていただきました。続く一般演題は8題で最後の4演題は関東支部研究グループ（鍼灸・漢方・気功・食養）の発表で初めての発表の先生も多く新鮮な雰囲気でした。

一方、業者展示にも会員の皆様が積極的に足を運んでいただけたようで反応もよく好評でした。今回は久しぶりの東京の開催でしたが盛会のうちに幕を閉じました。

今大会は東日本大震災の影響もあり、東北からの参加者が少なかったのは残念ですが新しい試みが学会への一石を投じたことになればよいと願っています。

松本英彦 (東京都開業・日本歯科東洋医学会関東甲信越支部長)